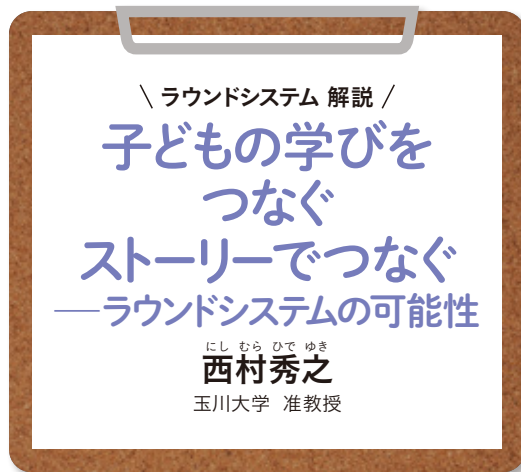




「英語教育相談室No.6」の特集でも、ラウンドシステムを取り上げました。こちらも含めてご覧ください。

小学校・中学校ともにストーリーがその特徴となっている『Here We Go!』。特に中学校では、その特徴をうまく活用した、「5ラウンドシステム」（以下、5ラウンド）による英語の授業が全国的な広がりを見せています。

5ラウンドシステムとは

5ラウンドとは、子どもの表現力を育むことをねらい、1冊の教科書をさまざまな角度から年間に5巡使用するカリキュラムです(図1)。もとは横浜のある公立中学校での取り組みでしたが、生徒が生き生きと英語を使う姿などから徐々に広がりを見せ、今では自治体として取り組むところもあるほど広がっています。

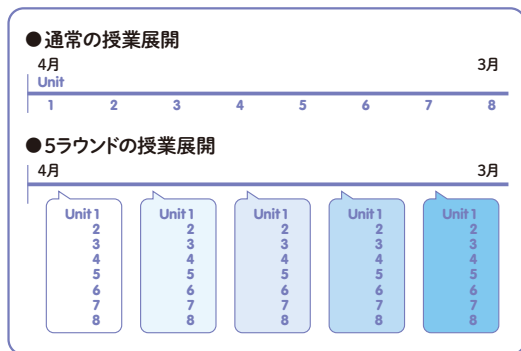


図1 5ラウンドの年間展開例

中学校では、第二言語習得の理論を参考にしながら、聞くことから話すことへと一年間かけて展開していくカリキュラムとなります。

ラウンド1では、聞くことを通じて内容を大まかに把握していきます。続くラウンド2では、音声と文字を一致させていきます。その後のラウンド3では、音声によって把握した内容と文字情報をつないだことを生かして音読。続くラウンド4では、教科書本文に空欄を設けて穴あき音読をし、それまでにインプットしてきたことを徐々にアウトプットへとつなげます。そしてラウンド5では、一年間かけてインプットしてきたことを使って、自分の言葉でストーリーを伝えるリテリングを行います。

これまで主に中学校で進められてきた5ラウンドですが、「聞くことから話すことへ」という言葉の学びの特性を生かし、小学校での実践も広がっているようです。

小学校では授業時数が年間70時間なので、5ラウンドではなく、3ラウンドなどで展開されていることが多いようです(図2)。

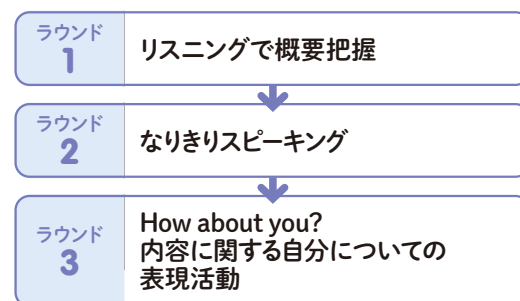


図2 小学校での具体的な展開例

ラウンド1では、聞くことを通じて内容を大まかにつかみ、ラウンド2ではキャラクターになりきって一緒に言ってみます。そして、ラウンド3では、たっぷり慣れ親しんだ表現・内容を踏まえて自分のことを話してみる、という展開が一例として挙げられます。

実際の教室の様子

小学校・中学校問わず、実際にラウンドスタイル(以下、ラウンド)の授業を拝見すると、あらゆる場面で子どもの英語が飛び交っています。中学校では教科書や穴あきシートでの音読、小学校では教科書に登場するキャラクターになりきって行う「なりきりスピーキング」など、ラウンドの一環としての活動のみならず、教科書で繰り返し触れた表現を活用できるように、先生と子ども、子どもどうしの英語によるやり取りが繰り返されています。教科書に繰り返し触れることで表現が染み込み、それらをやり取りなどの場面で子ども自らが活用することでだんだんと発信力が育まれる、といった具合です。学習者である子どもたちの活動が中心、というのがこのラウンドの授業の特徴です。

また、この授業の特徴は、第二言語習得の理論を踏まえ、たっぷり聞くことから無理なく話すことへつながるよう、長い期間で考えられているということです。中学校では、ラウンドごとに1〜2か月程度かけて活動を行い、教科書1冊を学びます。それは、小説を何度も読み返すような感覚です。小学校でも、学期ごとに複数ユニットを通じて、聞くことから最終的に話すことへと活動が展開されます。

「そんなに繰り返すと子どもが飽きませんか」という疑問が湧くかもしれませんが、そこにストーリーのよさがあります。繰り返しながらも、内容を中心に捉えていくので、「気づいたら何度も繰り返し聞いていた、読んでいた、話していた」という展開が可能となるのです。子どもは、個々の表現や単語ではなく、「Kotaのこの発言ってあやしいよね」など、それぞれのキャラクターの一举手一投足に注目しており、それ

がたまたま英語で表現されている、といった様子です。

そして、それはやはり中学校に限ったことではなく、小学校でも同様の様子が見受けられます。それぞれのキャラクターの発言に対して、子どもたちはさまざまにコメントをします。やはりここでも、表現が、単語が、などではなく、あくまでも「内容」に子どもたちの意識が向いているのです。

ラウンドシステムの可能性

ラウンドを実践している教室での子どもの様子を見ると、小学校でも中学校でも同じように、聞くことから始めて、徐々に表現することへという学び方を当たり前のようにしています。

言葉を習得するうえで大切な「たっぷり聞くこと」から始まり、表現に繰り返し触れながら子ども自らが活用し、表現する力を徐々に育んでいく。そのような学びがスパイラルに小学校から中学校まで展開されたとしたら、子どもたちの英語の力はどのように伸びていくのか、考えただけでもわくわくしてきました。

ストーリーを軸とし、内容を中心に進めていくからこそ、子どもたちは、紙面には表れていない世界を想像したり表現したりすることができるのです。自分たちでサイドストーリーを創作するなど、子どもたちの学びの可能性は無限大でしょう。

何度も繰り返すラウンドスタイルは、ストーリーを魅力とする『Here We Go!』だからこそその学びのスタイルと考えます。子どもたちの豊かな発想を大切に、いろいろな学びを可能にしてくれるのではないかと思います。